楷樹（山崎記念館前）

The Higo Foundation for Promotion of Medical Education and Research

肥後医育ニューズレター

（題字　元理事長　徳臣晴比古）

発行所　公益財団法人肥後医育振興会
〒860-0811　熊本市中央区本荘２丁目２番１号
TEL・FAX（096）373-5425
ホームページ　http://www.119higo.com/
E-mail　119higo@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp
発行人　理事長　神原　武　　編集人　木原　信市
印刷所　㈱城野印刷所　TEL（096）286-3366㈹

理事長挨拶

肥後医育振興会設立十七年目、熊本県第一号の公益財団法人に認定されて四年目を迎えて

理事長　神原　武

財団法人肥後医育振興会は熊本大学医学部創立一〇〇年記念事業として平成八年に発足したもので、熊本県における医学・医療振興に必要な教育・研究の助成、地域医療の向上と県民の健康増進、日本国内外の医学・医療の進展に寄与することを目的としており、資金は医学部教員、熊大医学部同窓会会員、更に一般の方々や団体からのご寄付・維持会費（賛助会費）によって賄われています。発足以来十七年目を迎え、「肥後医育塾」開催や熊本日日新聞発行の「あれんじ」の医療関連記事の監修を行うことにより一般市民にもよく知られるようになってきています。先般法人法が改正されたのを機に、平成二十二年一月四日付けで熊本県第一号の公益財団法人に認定され、創立以来の念願であった公益法人格を得、維持会費（賛助会費）が所得税・住民税を対象に税法上の優遇措置が認められようになり再出発をしています。

さて、新公益財団法人では評議員会が最高意思決定機関、理事会が執行機関となり、評議員会や理事会には委任状出席や代理出席が認められず、公益活動費が総支出の二分の一以上を占めること、次年度繰越金（遊休財産）の制限などが厳しく要求されています。

事業は①公益目的事業（以下、公①～公④と略）、②収益事業、③その他の事業（相互扶助事業など）に分けられています。昨年度の事業の詳細はこのニューズレターの後方に詳しく書かれていますのでご覧いただきたいのですが、以下に少し項目を拾ってみます。

（公①）医学教育・研究助成、外国人留学生奨学金の支給では、平成二十四年度は応募者が合計十七名あり、八名に助成や支給を行いました。**（公②）市民公開セミナー「肥後医育塾」の開催（年三回）**では、平成二十四年度は年間テーマを「女性のための医療」とし、その第一回は「女性のためのメンタルヘルス」、第二回は「女性のための医療～リウマチ膠原病と自己免疫疾患～」、第三回は「女性が自分で決めること」の演題で開催し、三回で合計一、一〇〇名の参加者がありました。内容の詳細については熊本日日新聞紙面（八月二十七日付、十一月二十二日付並びに三月十五日付）、及び本財団のホームページで県民に公開しています。

公益財団法人認定後の新しい事業は**「（公③）熊本県医療人育成総合会議」の開催**です。我が国では厚生労働省の国家試験に合格して資格を認定される医療職種が二三あり、医療現場ではチーム医療が定着していますが、教育現場では、各種の医療人育成学校間で連絡を取り合いながら総合的に教育内容を話し合う制度や機会が存在していません。それで各種医療人教育者が集まる総合会議を作り、様々な角度から意見を交換し学びあうことにより、地域医療を担う医療人の質的、量的な必要性を満たす医療人の育成（医育）のあり方を探る会にしようという計画です。

平成二十二年度の初回の会議では「チーム医療の現状と課題」、第二回目は「災害医療・災害医学教育」をテーマに東日本大震災と巨大津波の上に、原発事故による人災が加わり、災害医療、災害医学教育に色んな実例が明らかになって、医療人に何が求められ、どう対処したかを、現場で奮闘された医師、保健師、熊本から災害医療に派遣された医師、専門看護師、災害医学教育の国際的な専門家をお招きして、講演会及びパネルディスカッションを通して学びました。昨年の第三回目は「医療人育成を担う教育者の質の向上への課題」をテーマに行政（文部科学省、厚生労働省）、学生、大学、専修学校の立場からそれぞれ現状及び取り組みについて講演及び総合討論を行いました。第四回目となる今年は、十一月十六日に「医療人育成における教養教育充実への課題」のテーマで、文部科学省、大学教育学会、医療技術系大学、医療技術系専門学校等から講師を招いて講演及び総合討論を行う予定です。

何事においても、現状における問題点の原因を究明し更に目標を設定し、その解決のための有効な手段を開発・実施し、さらにはそれを評価（結果と目標との比較）する必要があります。しかも、それぞれをロジカルに進めていく事が大事だと思います。この医療人育成総合会議もそのように進んでいくことを期待しています。これらの内容は、後日熊本日日新聞に詳しく掲載し、また本財団のホームページでも県民に公開しています。

また、認定後に拡大させた公益事業として**「（公④）医学・生物科学関係の学会・シンポジウムの助成」**があります。従来から国際シンポジウム支援として熊本大学主催の「熊本医学・生物科学国際シンポジウム」を支援していましたが、近年熊本においても医学・生物科学関係の学会・シンポジウムの開催が増加しており、これらを広く支援することにより、さらに公益性を高め、熊本における医学・生物科学の研究と学術情報の発信・公開を促進させ、学術及び科学技術の振興に貢献するために、平成二十三年度から公募により支援対象の学会・シンポジウムを拡大しました。平成二十三年度二件、二十四年度三件の支援実績、二十五年度は四件が応募申請済みです（応募は随時受付ております）。

次に、**肥後医育振興会ホームページ**について触れたいと思います。これに関しては、ホームページの維持管理をお願いしている熊本日日新聞社と協議を行い、活性化を検討することになり少しずつ進んでいます。改革には検証可能な評価法が必要ですので、まずはアクセス数で評価する事から始めています。アクセス数は一日当たり平成二十年一五六件、平成二十一年一六六件、平成二十二年二二八件、平成二十三年三五三件、平成二十四年三四〇件と増加傾向にあります。

最後に熊本大学「肥後医育記念館」の再整備について、少し考えを述べておきたいと思います。肥後医育振興会や熊杏会（熊本大学医学部医学科同窓会）の事務所がある「肥後医育記念館」は元来ミュージアムとしての役割を期待して建設されたものでもありますが、昨今はその面の機能を発揮できておりません。熊本の地における医学医療の変遷などに関する資料を整理、保管、展示しておくことのできる数少ない場所であると理解していますので、現在提唱中の「熊本県ミュージアム・ネットワーク構想」や「熊本大学ユニバーシティー・ミュージアム構想」の中にきっちりと位置付けていただき、その中で肥後医育振興会も再整備にお手伝いできればと期待しております。

終わりにあたり、本会は皆様のご支援により成り立っていますが、本年は平成二十五年度～平成二十七年度分（三年毎更新）の維持会員更新の年でありますので、これまで維持会員であった先生方には引き続き更新いただき、また未加入の先生方には是非入会いただき、本財団へのご協力ご支援をお願いいたします。最後になりましたが、皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念してご挨拶に代えたいと思います。